



花みずき

主 題 神の力によってキリストと共に生きる

主題聖句 「願いなさい。そうすれば与えられ、あなたがたは喜びで満たされる。」

ヨハネによる福音書 16:24

『祈りの距離感』

竹田大地牧師（下関・厚狭・宇部教会）

2018年10月に、生まれ故郷であるブラジル・サンパウロ教会に行く機会が与えられました。故郷の教会、故郷の大地を、自分の足で踏むことができたこと、何よりも大変お世話になったサンパウロ教会また各集会所の方々と再会を果たすことができたことは嬉しい出来事でした。

さて、とかく私たちは現実的になりがちです。距離ということについてもそう言えます。友人の結婚式のご招待をいただいても、私の場合は、下関在住ですので、東京で祝日や土曜日に結婚式の日取りが決められていても、日帰りができるとはいえ躊躇してしまいます。

しかしながら、ブラジル訪問を通して改めて感じたことは、祈りに距離は関係ないということです。たとえそこに居られなくとも祈りが神を通して私たちを繋げてくださっているのです。30年ぶりのサンパウロ教会での交わりにおいても皆さんが心から私が牧師に召されたことを喜んでくださっていること、日々祈りに覚えてくださっていたことを感じました。私はというと、まさかブラジルの方々がここまでお祈りに覚えてくださっているとは思いませんでした。

そのような中で、自分が誰かに祈っていただいているということを実感しました。これまでもそのような思いに至ったことはあると思うのですが、つい忘れてしまうのが人間の性分であろうかと思えます。

翻って、西教区女性会についても同じことが言えるのではないのでしょうか。自分たちの教会だけを見るならば、人数も減ってきて... 高齢化が... 等と悩みは尽きません。しかしながら、私たちは、それぞれの教会が離れていようとも互いに祈り合うことによって、そして、そこには神の臨在があり、神を通して私たちは互いに繋がっているのです。すなわち、祈りに距離は無いのです。

たとえ小さな群れであっても、大いなる者と共に在る私たちは大きな神の家族とされているのです。

竹田大地牧師 プロフィール

1985年 ブラジル・サンパウロ出身
1998-2008 自由学園
2008-2012 日本ルーテル神学校
2012- 下関・厚狭教会
2014- 下関・厚狭・宇部教会

妻と猫2匹と暮らしている。
釣りが趣味。少しでも時間があれば釣りに出かけている。父も牧師（大森教会）



有難うございました！地区連絡会！～感謝と課題～

会長 國吉純枝

2018年11月、西教区の3地区で地区連絡会を開催いたしました。

各地区とも、皆さんお忙しい中集まって下さり、礼拝・讃美・学び・協議の時間を持つことができました。小泉小枝姉には、私共の要請を受けて3地区ともご参加くださり、まことに感謝でした。

各地区での連絡会の様子をご報告いたします。

【関西地区】

11月13日(火) 13:00～16:00 大阪教会 参加者 14名

○礼拝：大柴讓治牧師

「讃美歌を歌うとは会衆による説教。ルターによる礼拝改革があればこそ。神の恵みを深く理解し力をいただこう。詩編 102:19」

○みんなで賛美

指導：(天王寺) 桑野住子姉、(神戸) 松本奈美姉

○サバに学ぶ

今夏、サバ神学校を訪問された小泉小枝姉(修学院)からの報告

「1993年から女性会連盟の支援が始まる。サバ神学校で学び牧師になられた方々が、マレーシア各地で活躍され、新たに教会が建設されつつある。神学校の建物も立派になり、大歓迎を受ける。(ケンピン先生ご夫妻は4月に来日、4/11～4/16 関西滞在の予定) 一人の女性の祈り、提言から始まった支援が大きく実っている。教会は、他の人々のために働くことで成長する。サバへの支援を通して、私たちも励まされ、力をいただいている。」 ※東中四国地区、西中国地区での報告とも合わせてお読みください。(文責：國吉)



○協議の時間

①地区連絡会の活性化が課題。そのためにも交通費支援は必要。

②ACWCJ 関西支部委員について、仕事内容の説明と今後についての提案。

【東中国四国地区】

11月20日(火) 10:30～14:25 三原教会 参加者 15名

○礼拝：鈴木英夫牧師

「目と目、顔と顔をあわせて、全てを神に委ねてさらに『一歩前に、外に出る』という動きが求められている。地区女性会の集いができることは凄い事。第2コリント 13:11」

○みんなで賛美

指導：(広島) 松木美郷姉

○協議

①地区連絡会は東中四国地区の信徒が集まる唯一の機会。交通費支援は、これまでのように1教会1名分はお願いしたい。会場を持ちまわっているが、松江や松山についても、早めに計画することで実現できるのではないかと。 “参加費・交通費などの補助について” を明文化されている

教会もある。

②「連盟全体の働きを支えるために、連盟指定献金を覚えましょう」との声がありました。

○サバに学ぶ

「独居老人への配食サービスは、一人のドイツ婦人の働きで始まった。サバの神学校支援も25年前に一人の婦人の祈りと支援から始まった。一人の女性から始まった支援は他にもたくさんある。私たちの支援で牧師になった人たちが活躍され、伝道が進んでいる。自分たちだけのための働きは衰退する。まずは、教会の皆さんに呼びかけることが大切。」



【西中国地区】11月21日(水)1030~14:00 厚狭教会 参加者 21名

○礼拝：竹田大地牧師

「キリストに対する畏れをもって、互いに仕え合いたいものである。エフェソ5:21」

○みんなで賛美

指導：(厚狭)吉田洋子姉

○サバに学ぶ

「サバを支援することで、私たちも元気をいただいている。交流し学び合うことで、信徒も牧師も育っている。経済的に豊かではない状況においても伝道は進んでいる。精一杯のもてなしを受けた。」

○協議

- ①「他者のことも覚える時、何倍にもなって返ってくる」「前向きに出かけて行くことの大切さを学ぶ」「信仰の先輩をもっていることの幸いを感じる」「祈りの不思議さと大切さを感じた」「背景にある動きと一つ一つのつながりを確認することができた」「自分の教会を守ることで精一杯なのに、どこから(伝道)意欲がでるのだろう」②交通費について：少しでも出かけやすい態勢を整えることが必要ではないか。大忙しの中、教会の代表として参加した。③西日本豪雨災害支援物品について：ある程度品物を絞り込み、期間限定で販売してはどうか。安浦町を支援する理由を明確にするとよい。



※呉市安浦町での品物を見本として3地区に持参し、西中国地区では、皆さんにご購入して頂きました。

“出かけて行く” ことの意味をかみしめています。島根・香川・愛媛県の各教会にも、何とかして訪問させていただきたい！

「洗礼50年記念証をいただいて」

神戸教会

別府タエ子

おめでとうございます！

神戸教会は2018年宣教百年を迎えました。

先日の（12月2日）の礼拝時に洗礼50年の証を頂きました。神戸教会は今年宣教百年ですから、その後半、共に過ごしたことになります。

教会に来ることになったのは結婚後、神戸教会員であった夫と共にでした。2年ほど過ごした頃、牧師先生に勧められました。でも何の決心や特別の思いも無く、こんなにぼんやりした気持で受洗してもいいの？ということが気がかりでした。

礼拝に行くと先生の奥さまや先に来られた方がにこやかに出迎えて下さり優しく接して下さいます。子どもたちもとっても可愛がっていただきました。そんな方々に囲まれ私もそのようになりたいと思ったものです。そういう気持ちが受洗に向いて行ったと思います。

こんなに優しくあたたかな柔らかな方がいらっしゃるとは……。毎週日曜日は楽しみでした。でも受洗後、集まりの時は人前で声を出して祈ることが出来ず、苦痛に思っていました。

ある時、雨が降っていました。「今日は教会に行きたくないなあ」と言って、夫に「雨やから風やからと礼拝を休むなんて、そんなもんじゃない！」と叱られてしまいました。

夫はその頃、元旦礼拝から除夜祈祷会まで教会に集うことが日常でした。子どもたちが付属ののぞみ幼稚園に通うようになり、礼拝をし、讃美歌を歌うようになったので、そのころは私もよく聖書を読みました。でもほとんど理解は出来ていませんでした。好きな聖句をいくつか憶えたくらいでしょうか。受洗したことは私自身が決めたことと思っていました。ある時のお説教で、神さまが選んで下さったのだということを知りました。

そんな私ですが、これまで50年の間、事あるごとにずっと神さまに導かれ守られているなあと感じています。「信仰、希望、愛」は夫からの言葉。「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。」は私の好きな目標の聖句です。いつも共にいて下さる神さまを信じています。



日本福音ルーテル神戸教会



「全国青年バイブルキャンプ報告」

健軍教会 安藤風

八月に神学校で行われたバイブルキャンプに参加しました。このキャンプに参加するのは初めてではないのですが、毎度二日目の夜には何時間も頭を悩ませることになります。

バイブルキャンプは中高生キャンプのスタッフの教育を目的のひとつとしています。七年間毎年キャンパーとして参加していても、その後すぐにスタッフの立場になり中高生をサポートできるとは限りないでしょう。聖書の学びにおいてそれは特に不安を感じる一因になり得ます。バイブルキャンプでは聖

書の読み方やそこからメッセージを作る方法を学び、実際に教会学校でのお話を想定してメッセージを作ります。キャンパーであった頃のようにただ話を聞いてそのまま学ぶのではなく、自分で聖書を読んで御言葉を聴き、それを他人に伝える姿勢を学ぶのです。

中高生の頃も、自分の思い入れの深い聖句や過去の経験に関連するような聖句を用いてメッセージを作りましたが、突然与えられた聖句で、小学生にも伝わるようなメッセージをたった二日で作るのは遥かに難しいことでした。何度も繰り返し聖書を読み、四つの福音書を読み比べ、情景のイメージを掴むために地図を探したり画像を検索したりしました。それでも自分の解釈が本当に正しいのか、小学生にも伝わる内容になっているか、最後まで自信をもって完成したとは言いきれませんでした。

バイブルキャンプでは参加者同士がお互いに発表しただけでしたが、私は自分の教会の教会学校で、このとき実際に作ったメッセージをさせてもらう機会がありました。幸い子どもたちは非常に素晴らしいリアクションとともに、しっかりと最後まで聞いてくれました。少しだけ、わたしも神様のお役に立てたような気がしました。

今年も三月に全国の中高生キャンプが開催されます。もちろん私はスタッフとして参加します。バイブルキャンプで学んだことを活かし、中高生がより良い学びを得られるよう、彼らのサポートができれば、と思います。

「TNG 全国子どもキャンプについて～開催側から～」

神戸教会 松本奈美

いつも TNG の働きをお覚えくださり、お祈りと支援をありがとうございます。女性会連盟(当時は婦人会連盟)の青少年育成プログラムの一環から生まれたこのキャンプは、本教会宣教室が受け継ぎ、TNG 委員会の主催となって今に至り、2018 年は第 20 回を迎えました。偶数年は広島教会と保育所のご協力のもと、広島教会にて開催されています。

チャプレンの伊藤先生(当教会牧師)が立ててくださった指標の「5つの出会い」が正にこのキャンプの軸と言えます。まず、全国の「①なかま」に出会います。そして被害を日本の加害と共に「②ヒロシマ」に出会い、きっと初めて「③平和」について真剣に考えることに出会います。どうしてそう考えるのか?という「④自分」に出会い、それを仲間と共有します。そのうえで聖書の語る平和はどういうこと??と「⑤みことば」に出会うのです。そしてそれを自分なりにどう感じてどう捉えてどう考えるか・・・仲間はどうか考えたのか?言葉や身体や絵などで、自分なりの表現をもちよって分かち合います。5つの出会いは、子どもたちにとってきっとどれも初めての出会いでしょう。だからこそ少しでも良いものを!と祈りつつ企画・実行に努めています。皆さまのお祈りと支援と関心がとても大きいです。

2019 年はルーテル学院大学・神学校にて外国を取り上げる年です(フィリピンの予定)。人種や文化、社会の仕組みや価値観の違いに触れた上で、神さまの大事な宝であることになんら変わりはないことを伝え、命が大切であることの根本的な意味の理解を深められるようなキャンプを目指しています。どうぞ引き続き、お祈りと支援、関心をお願いします。

《お知らせ》

このキャンプの「思い出集」が各教会に届けられています(正誤表とともに)。多少誤字脱字はあるものの、本当によく作られていて、いつもにも増して、生き生きとした子どもたちの様子がよく分かる「思い出集」に仕上がっています。(千葉教会の小泉嗣牧師の撮影、作成です。)

是非是非お手に取ってご覧になってください。

びふおー・あふたー 次回は ~大阪教会より~ です!

びふおー・あふたー

~宇部教会より~

昭和二十四年、教会付属の幼稚園に入っすぐ、まだ四才でしたが、大好きな先生に「日曜日も幼稚園に来ませんか」と誘われて日曜学校に通うようになりました。イースターの卵探し、母の日、花の日、ペンテコステ、夏休みの夏期学校、秋の収穫祭、バザーそしてクリスマス。聖劇で天使になったり、「靴屋のマルチン」のおばあさん役をしたりしました。とにかく楽しい思い出がいっぱいあります。神様やイエス様はいつもともにいて、私たちを守り導いて下さる方であるとの信仰は、子供の頃に自然に生まれました。四才の時から今まで、教会につながってこられたのは、神様の恵み以外の何ものでもない、と思います。

(Y. H)



初めて教会に行ったのは、小学校高学年の時、近所の友人に誘われて「教会に遊びに行こう」でした。「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。・・・わたしの話した言葉によって、あなたがたは既に清くなっている。わたしにつながっていなさい。・・・あなたがわたしを選んだのではなく、わたしがあなたを選んだのだ。」(ヨハネ 15 章) 高校時代このみ言葉に出会い洗礼を受けました。私は出生時より病弱で長くは生きられないと医師から言われていたそうです。「子と孫とひ孫と揃ひ小春かな」今はこの時まで生かされていることに感謝しています。

(野の花)



私が中学生の初めだと思います。祖父が結核で入院(山口大学病院の前身)している時にルーテルアワーでキリスト教に出会い、河田牧師とデール宣教師に洗礼を授けて頂きました。私は祖母を連れて宇部教会の礼拝に通うようになりました。中学三年の時祖父が天に召され、高校一年の時祖母が病に倒れ自宅療養している時は、枕元で聖書を読んだり賛美歌を歌ったりしたのを覚えています。結婚後は子供たちを連れて松江のキリスト教団に通っておりました。受洗は2000年と、まだ日は浅いのですが、ずっとキリスト教と共に生活し助けられていた様に思います。受洗後は礼拝第一に、なるべく休まないように心掛けています。そして何事も神様のご計画のままにと祈るようになりました。今までの人生、後悔なく過ごす事が出来ているのも、神様のご計画のうちに歩ませて頂いているからでしょう。感謝です。

(H. T)



私は、姉がクリスチャンでしたから教会は近くに感じておりました。子供も巣立ち、主人も亡くなり今ひとりです。皆様の真心で私も主人に優しく接することが出来ました。今は教会が「安らぎの里」です。昨年10月、洗礼も自然と受け入れることが出来ました。姉によく言われます。「足りない言葉はつぎ足せるが、言った言葉は引っ込められない」と。そんな悠長なことを言っていたら今の世の中生きて

いけないよと、反発したものです。そんなこんなで私は強くなったのだろうか？成長したのだろうか？毎日、反省です。今は人を傷つけていないだろうか、イエス様のことばを素直に聞いてみようと思います。

(空の鳥)



就職後半年、ある病気の疑いで強制退職となり故郷へ帰ってきました。心の傷は深いものでした。その時、近所に住んでいた友は度々教会に誘ってくれましたが、私はいつも断っていてその内教会へ誘う話はしないでと言ったのです。2年ほどたった時、隣町での「キリスト教特別講演会」へ誘われ、日頃の不義理を挽回するため仕方なく参加しました。初日の講演後、驚くべきことにバプテスマを受けたいと思わされたのです。自分の思いではなく神様の思いに生きたいと思ったのです。突き動かされるように3日間連続計4回の講演に参加して2か月後に受洗しました。1年後、市内のルーテルへ転会しました。その友は、私がイエス様に導かれる時が与えられる事を祈ってくれていたのだと、今ならハッキリと信じることができます。今、不信仰ゆえに悩みが深くなった時、祈りの中で神は「どこにいるか」と仰います。ここにおりますと応答していく者でありたいと願っています。(J.Y)

20歳で受洗した当時は青年が多く、親しい友人が受洗した流れに乗った感じだった。その後40年、定年退職するまで様々なことがあり仕事と子育てに追われどう変わったかは簡単には語れない。礼拝を休み勝ちの時期もあったが、今は幸いに時間だけはふんだんにあり落ち着いて礼拝に出席できるようになった。現在、教会生活を共にしている多くの兄弟姉妹とは、30年・40年あるいはそれ以上の年月を互いに見合っ年を重ねてきた。身体的にも失っていくものが少しずつ増えていく中で、モノの名前もすぐには出てこなくなり、「あれ」、「それ」の会話が多くなった。そういう自分の姿を相手にも見たときに一緒に笑い合うのである。「共に生きる」とはこういうことか。これから新たに出会う兄弟姉妹も含めて神に召されるその時まで、認め合い許しあい、祈り合い笑いあって交わりを続けていけたら幸いである。(K.I)



1970年に修学院教会で洗礼を受けました。さかのぼって1952年、京都教会の幼稚園に電車で通い小学生の時は歩いて行けた聖公会の教会学校に姉と共に通っていました。幼き日に創り主を覚えたことが結果的にクリスチャンに導かれたのだと思っています。結婚して三ヵ月目に、九死に一生を得たことによって、生命は神様のものと、いつも認識するようになりました。性格は弱くその上、聞くことはできるが人前で話すことが苦手な自分がありました。子育ての経験はいろいろなことに目覚めさせてくれました。

アフター？ 客観的に考える習慣がついたこと。前向きな気持ちがくりかえし地道に続いていること。愛されるより愛する心が与えられたことでしょうか。(藤井貴子)



2018年度 会計報告

〈連盟へ送金〉

項目		予算	決算	連盟会費		
収 入	会費	234,000	222,000	連盟会費	481,100	
	指定献金	145,000	147,800	会報購読費	28,000	
	補助金	50,000	50,000	連盟指定献金	76,400	
	雑収入	1	1	感謝献金	160,000	
	喜望の家支援金	120,000	144,000	サバ神学生支援	83,250	
	青少年育成支援金	60,000	58,600	TNG支援	83,400	
	るうてるホーム支援金	65,000	74,000	リースコイン	51,003	
	前年度繰越金	125,600	125,600	ACWC署名キャンペーン	12,600	
	繰入金	130,000	101,874	合 計	975,753	
	合 計	929,601	923,875	〈青少年育成支援金〉		
支 出	役員会費	160,000	116,470	収 入	前年度繰越金	118,856
	通信費	15,000	9,404		献金 教会	58,600
	文書費	30,000	19,337		利息	0
	活動費	180,000	51,860		合 計	177,456
	喜望の家支援金	120,000	144,000	支 出	春キャン・子どもキャンプ	21,000
	青少年育成支援金	60,000	58,600		青年バイブルキャンプ	25,000
	るうてるホーム支援金	65,000	74,000		全国子どもキャンプ	10,000
	総会用積立金繰出	100,000	200,000		繰越金	121,456
	雑費	0	0		合 計	177,456
	繰越金	199,601	250,204			
合 計	929,601	923,875				

役員会動向

- 9月29日 いくつしみ研修会 於:大阪教会
 11月8~9日 女性会連盟教区役員研修会 於:ナザレ修女会エピファニー館
 12月6日 西日本豪雨被災現地訪問・教区役員
 2月14日 教区役員会 於:シオン教会徳山

編集後記

私事ですが、10月から11月にかけて、ドイツを訪問する機会を与えられました。日本福音ルーテル教会とドイツ・ブラウンシュバイク領邦教会とのパートナーシップ提携50周年を記念した訪問団に入れて頂き、14名で9日間、現地での礼拝に出席したり福祉施設の訪問、見学など、内容の濃い充実した旅になりました。遠い国でいつも私達のために祈って下さっている兄弟姉妹とお会いし、交わりを持つことができ、神の家族を実感しました。これからも、祈りあい、支え合っていきましょう。米田節子



第19期 第2号
 発行者代表 國吉純枝
 編集者 米田節子